

## モニタリングプロジェクト報告 楡葉町で放射線測定を実施



▲測定値を記録紙に記入する安藤理事長。手前が更地となった場所(除染済み)矢印の先の白いものは測定点を示す番号札。

◀左写真は、午後の測定を前に打ち合わせするメンバー。

原子力災害対策本部は、8月7日に楡葉町の避難指示(避難指示解除準備区域の指定)を9月5日に解除することを決定しました。

今回は今年度になってから依頼のあった2軒に安藤博理事長と平井秀和(東京)さんとその声掛けに応じてくださった添田恵子(福島)さん、高橋済(茨城)さん、武政邦男(東京)さんと私の6人で行ってきました。

2軒とも二度目の測定です。参考のために測定された線量のおよその値を示しておきます。今回のモニタリング作業による個人被ばく量は $0.0 \mu\text{Sv}$ でした。

午前中に測定した家は、昨年5月に除染後の家と敷地を測定したところでした。その時の結果に基づいて町に追加除染作業をお願いしたとのことでした。今回9月5日の楡葉町避難指示解除に関連してもう一度測定して欲しいと言われて来られました。

家屋内で線量の高かったところは、二階の天井近くで前回 $0.28 \mu\text{Sv/h}$ 程度の測定値が、今回は $0.22 \mu\text{Sv/h}$ 程度まで下がり、残存率は78%程度でした。一階の1m高さでは前回 $0.17 \mu\text{Sv/h}$ の測定値が、今回は $0.14 \mu\text{Sv/h}$ まで下がり残存率は86%程度でした。家屋内ではどの部屋も1cm高さの線量は前回測定値以下でした。

敷地で高かった所は1cm高さで前回 $0.45 \mu\text{Sv/h}$ でしたが、今回は $0.41 \mu\text{Sv/h}$ を示し残存率は91%程度でした。庭の1m高さでは前回 $0.28 \mu\text{Sv/h}$ 、今回 $0.21 \mu\text{Sv/h}$ で残存率は76%

程度でした。

セシウムの半減期から推定される前回(昨年5月)から今回(今年7月)の間の残存率は89%程度ですから、庭の1cmではこの自然の減衰と同程度で、他のところは自然の減衰よりも大きく減衰していることとなります。今回の測定値が前回より下がったので、この家の持ち主は、多少は安心したようでした。

午後に測定した家は、前は平成25(2013)年秋の除染前に測定したところでした。ごく最近除染作業が終わったということで今回あらためての測定となりました。

家屋内(母屋)で線量の高かったのは天井近くで、除染前の前回 $0.40 \mu\text{Sv/h}$ 程度が今回は $0.24 \mu\text{Sv/h}$ 程度で残存率は60%程度でした。1m高さでは前回 $0.37 \mu\text{Sv/h}$ の測定値が、今回は $0.18 \mu\text{Sv/h}$ まで下がり残存率は49%程度となりました。

母屋近くの外回りでは1cm高さで前回の $1.51 \mu\text{Sv/h}$ が、今回 $0.60 \mu\text{Sv/h}$ まで下がり残存率は40%程度でした。1m高さでは前回 $0.60 \mu\text{Sv/h}$ 、今回 $0.25 \mu\text{Sv/h}$ で残留率は42%程度でした。

母屋先の敷地内では、納屋などを取り壊して更地にした後に除染を行っていました。そこでは1cm高さで前回 $1.18 \mu\text{Sv/h}$ 、今回 $0.18 \mu\text{Sv/h}$ で残存率は16%程度でした。1m高さでは前回 $0.70 \mu\text{Sv/h}$ 、今回 $0.21 \mu\text{Sv/h}$ で残存率は30%程度でした。この1cm高さと1m高さの線量がほぼ同じであるという現象は(表土をはぎ取りその上に客土した)除染

したところに共通の現象のようです。

セシウムの半減期から推定される前回(平成25年秋)から今回(今年の7月)の間での残存率は84%程度ですから、上記の低い残存率は除染作業(および風雨による清浄化作用)の効果があったことを示しています。

なお、国が言っている「事故による追加年間被曝線量1mSv」に対応する線量は自然放射線を考慮すると0.16μSv/hです。ごく大雑把に言えば、今回測定したところの1m高さでの線量はこれと同程度でした。(伊藤邦夫)



## 息子達への恩返しとして参加 高橋 済

7月29日、檜葉町でのモニタリングに、補助員として初めて参加した。酷暑ではあったが、海に近いのか風はさわやかであった。しかし、あの日がなければ平穏に暮らしていたであろう多くの人々の姿はなく、静かな佇まいであった。

思えば、私は熱烈な原発支持者であった。高齢化が進み何もない故郷秋田の友に、原発誘致を勧めたりもした。経験から、原発がどれだけ細心の注意を払い造られているかを知っていたからだ。しかしそれは、木を見て森を見ない類の話で、実際は葉っぱ一枚で地球を見た気でいたのだ。

モニタリングの民家の庭先は除染されても、その先は人を拒否する草木深き砂漠だ。触れ親しむことのできぬ山河に、原発の有用性は認めながらも、「この道は袋小路」の思いが深まる。

この町には、あの日まで息子夫婦が住み、お世話になった。もう帰ることのない息子たちに代わり、ささやかな恩返しを今後も続けられればと思っている。

## 皆様のご意見を十分に活かして 理事長 安藤 博

8月1日付で福島原発行動隊の全関係者に手紙(「福島原発行動隊の再出発」)をお送りしました。行動隊員と会員に加え、これまでお世話になった国会議員や貴重なご寄付を下さった方々、マスコミ関係者など、会員以外を含め約2,000通におよびました。

これに対して多くの方々から、福島原発行動隊の今後の活動に関するご提案等の返信をいただきました。深く御礼申し上げます。

6月30日の年次総会とその後の理事会で決まった新体制が、福島原発行動隊の発足当初に想定されていた短期決戦型の“原発建屋に飛び込む”行動に代わる、持久戦型の行動に向かって総がかりで挑んでいること、そしてこの持久戦を支える財政基盤を確立するため、2016年度からの賛助会費値上げ(1,000円⇒3,000円)を皆様に訴えました。

併せて、これまで会費免除としてきた行動隊員には、賛助

会員として登録していただき、会費をご負担いただくようお願いしました。さらに、賛助会員の方々には、未納分の会費の督促を求めました。一部で、既に納入されていた会員へも督促がありましたこと、この場をかりてお詫びいたします。

また、財政基盤確保のための策として、会報『SVCF通信』の郵送料負担もお願いしました。「新体制で再出発」と銘打って、値上げ、督促、料金徴収のお願いばかりのようで心苦しい限りですが、一重に「寄付お願い中心」から「会費による定収入を中心」とする財政に転換していくことを目指す策です。

短期決戦型の“飛び込む”に代わる持久戦型の行動を具体的に考えるようにと、長文のお手紙をお寄せ下さった方もあります。「持久戦への転換」が当座をしのぐ空念仏に墮すことのないよう、いただいたご批判・ご助言を十分に活かしていく所存です。

## 〈次回:第45回院内集会のご案内〉

- 日時：9月24日(木) 11:00-13:00(10:30にロビーで入館証配布)
- 会場：参議院議員会館 B103会議室
- 内容：〈福島原発行動隊〉のこれまでとこれから

2011年3月12日に東京電力福島第一原子力発電所が爆発事故を起こして、はや4年半が過ぎました。福島原発行動隊の歴史も同じ年月を経る中で、初心に戻り私たちが掲げた理念を再度確認する中で、現時点における取組み課題を抽出して、新たな方針を立てて活動への第一歩を歩み出しました。

来る9月24日(木)の第45回院内集会では、あらためてこれまでの活動を振り返るとともに、今後の活動のあり方を皆様とご一緒に考える機会を作りたいと考え、「〈福島原発行動隊〉のこれまでとこれから」と題した意見交換会を開催いたします。

皆様方におかれましては、是非ともご参加いただき、この機会にご意見を述べていただきたく思います。よろしくごお願い致します。